

さいたま市立浦和高等学校

青少年赤十字JRC

高校生ボランティア・アワード
2020

災害における青少年赤十字活動 活動概要

青少年赤十字活動を通じて、国際人道法や救急法を学び、「奉仕」「健康安全」「国際理解親善」に向けた実践活動を行っています。エコ・バック推進運動、エコ・キャップ回収活動(ポリオ撲滅キャンペーン)やコンタクトレンズケース回収(二酸化炭素減少への働きかけ)を基軸に南北格差と共生の道を探っています。九州豪雨災害募金活動や現地リサーチを実施しました。

特に「国際理解親善活動」に力を入れて、留学生を交えた異文化理解セミナーを実施している。海を越えた世界の広がりを感じて、自分達の活動エネルギーとしています。

また、今年は国際連合創設75周年に当たり、市民が意識を持ち国と国の友好関係を築くことを願い、継続活動を行っています。具体的には高校生国連軍縮会議に端を発して、ユース平和会議、国際学生プレゼンテーション、市民フォーラムの企画・運営を行ってきました。その担い手として、私たち高校が出来ることは少ないですが、その小さな力を集めることが重要になってくることに気づき今回の「市民フォーラム」を実施しました。企画にあたり、保護者、地域の方々、行政の方々、内外の高校生からの意見をいただき、小さいが継続的に「核兵器のない世界構想から行動へ着実な前進」に向けた活動を行っています。



「小さなことかもしれないけど、困っている人にとっては大事なこと。」

“It may be a small thing, but it is important for those in need.”

活動指針：

本校は中高一貫校であり、高校生の活動を身近で見ることができました。特にエコ・バック推進運動、エコ・キャップ回収活動(ポリオ撲滅キャンペーン)やコンタクトレンズケース回収(二酸化炭素減少への働きかけ)は中学生でも協力できる活動であり、生徒会として活動の一部として実施しています。

日本でも東日本大震災を含め、多くの地域で災害あり赤十字の緊急救援活動の展示資料から学ぶことができました。

また、本校の先輩が発展途上国へ派遣されて、その帰国報告会では青少年赤十字JRC活動をさらに深く知る機会となりました。

高校でも地域や社会に貢献できることに意義を感じています。部活動のメンバーは兼部している生徒が多いのですが、身近な目標をメンバーと相談しながら決めて実践するようにしています。顧問の先生からの情報もありますが、自分達でリサーチや協議しながら人のために役立つ、身近な活動を模索しています。ひとり一人のメンバーがそれぞれのプロジェクトのリーダーになって活躍できるように働き掛けています。

それに各々が考えて個々の活動を実践していることでより、短時間で効果的に部活動を行うことができます。実に楽しく、有意義な時間を過ごしています。

「活動目標」(出来る活動からチャレンジ！)

先輩達が行ってきた発信力をもつ活動があります。ある先輩は「交通事故の防止に向けて小さな習慣を変えることが大切、習慣を変えるのは難しいが、ひとりひとりが気を付ければ守ることができる命がたくさんある。交通事故は、個人の悪習慣による疾患であり、未然に防止が可能です。」とモンゴルでの活動を話してくれました。

また、オーストリアでの国際ユース会議に参加した先輩は、ほかの国の赤十字、赤新月、レッドクリスタルについて知ることができ、自分なりに日本の赤十字について考えるきっかけとなりました。私たち若い世代がどのように活動していけばいいのか、日本人として発信すべき平和とは何か。自分にできること、自分にしかできないことを探していこうと思いました」と話されていました。

海外姉妹校に対するリサーチ協力と依頼に多くの友人、米国・ネパール・トリニダードトバコ・韓国・シンガポール・マレーシア等の国から平和や人道に関する価値ある資料をいただきました。その時に言葉や文化を越えた絆を強く感じました。同じ高校生からのメッセージは心を打つものでした。それは、この地上にいる人々がお互いに平和に対して強い意志をもつこと、協力し、豊かな社会を築くことになります。

今年は「模擬国連」に参加します。英語での発信力を持つ活動を通じて、リサーチ・考察・発信を繰り返すことにより、多くの仲間や集団からリーダーシップが身に付けることを強く感じました。



各国の赤十字、赤新月、レッドクリスタルについて知ることができ、自分なりに日本の赤十字について考えるきっかけとなりました。私たち若い世代がどのように活動していけばいいのか、日本人として発信すべき平和とは何か。自分にできること、自分にしかできないことを探していこうと思いました。また、今までの発展型として、市民に対して発表することにより、高校生の国際問題への理解を高め、国際社会で活躍できるような人材へと成長する機会としてきました。



「発信力を持った活動」

平成23年から続けてきた国際学生プレゼンテーションでは「市民による核廃絶に向けた草の根活動」を、平成24年度には「政府によるハイレベルな外交政策と市民活動の融合」、そして、平成25年度の国際学生プレゼンテーションでは、学生たちが共に原子力問題について議論出来る世界高校生会議に触れて、一つ目として「国際連合は人道的な観点から軍縮問題に取り組むべきだということ」、二つ目として国際連合は核問題に関するPR戦略を向上させるべきだということ」をまとめております。そして、外務大臣への提言を実際に外務省で実施しました。活動を継続しています。

令和元年には、オーストリアでの国際赤十字ユース会議が開かれて、先輩が国際人道法や赤十字の歴史の講義などに加えて、今年のテーマに沿って、オンラインコミュニケーションやサイバー犯罪の講義、さらには人格構成についての講義も受けました。サイバー犯罪についての講義では、警察やその他団体が制作した動画を見て、伝えたい人や事柄を決めて動画を作っているということを知り、応用として自分たちも実際に赤十字の活動を知ってもらうための動画を作成しました。

また、今までの発展型として、市民に対して発表することにより、高校生の国際問題への理解を高め、国際社会で活躍できるような人材へと成長する機会としてきました。中高一貫校として学年を越えて継続的な活動を実施しています。



「チームワーク」が求められる。それは変化・多様性・予測困難な現代であるからである。グローバル化、日本だけでなく海外の人と一緒に働く職場が増えている。本校でも変革が進んでいる。ワークライフバランスの重要性、ライフステージに応じて個人の働き方はより多様化していく傾向にある。こうした中、これから一層必要とされていくのは、「個人」ではなく「チーム」で活動をする視点である。本校の赤十字活動は、ここに重点をおいています。